日立市立水木小学校

Ⅰ　実践

１　研究主題

互いを認め合い，思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方
～かがやきプロジェクトを通して～

（１）主題設定の理由

学校周辺には泉が森などの史跡も多く，地域の人々は地域の歴史に誇りをもち，伝統を大切にする気持ちが強い。

児童は，明るく活発である。縦割り班活動などを通し，異学年の交流も盛んである。高学年が低学年を思いやる微笑ましい姿も見られる。しかし，あいさつでは声が小さくなり，進んであいさつができないこともある。

地域の方々や保護者からは，思いやりの心をもち，将来，地域の方々と助け合える児童の育成を願う声が大きい。

そこで本校では，「かがやきプロジェクト」として，３本柱を中心に児童の指導に当たってきた。その３本柱とは，「元気 UP プロジェクト」「学び UP プロジェクト」「笑顔 UP プロジェクト」である。その中でも，人権教育に関係が深いのは，「笑顔 UP プロジェクト」である。児童の心を豊かに育むための活動として，あいさつ運動の推進，豊かな体験を通した実践的な道徳教育の充実，望ましい集団活動を通した特別活動の充実，特別支援教育の充実などが挙げられる。これらの教育活動を通して，一人一人がお互いの良さを認め合い思いやりの気持ちをもって，ともに助け合うことのできる児童を育てたいと考え，本主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　人権意識を育む体験活動
イ　地域の行事への参加
ウ　人権に関する啓発活動

２　実践内容

（１）人権意識を育む体験活動

ア　中学校や PTA と連携したあいさつ運動

本校では毎朝，生活委員会の児童と教職員が昇降口付近に立ち，登校してくる児童にあいさつ運動を実施している生活委員会の児童が，大きな声で元気にことばをかけるので，あいさつが苦手だった児童も少しずつ元気にあいさつが返せるようになってきている。今年度は，水戸ホーリーホックのキャラクター「ホーリー君」が来校し，一緒にあいさつ運動を行った。子供たちは大喜びで，ホーリー君に元気に「おはよう」と声をかけたり,ハイタッチしたりする様子が見られた。

＜あいさつ運動の様子＞

イ　いじめ０（ゼロ）集会

児童集会で，毎年実施している。いじめがなぜいけないことなのか,自分がいじめをされたらどうするか,いじめを目撃してしまったらどうするかなどを，各学年の発達段階に応じて学級で話し合う。集会では,「いじめをしない」という誓いを立て，「いじめ０」シールを 胸章の裏に貼る。学級ごとに話し合って決めた「いじめのちかい」を発表する。集会後，自分の決意を『めばえノート』や『わたしたちの道徳』に記入し保護者にも伝える。

さらに，学校だより，学年だより，生徒指導だより「はまぎく」などで「いじめ０（ゼロ）運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ,理解啓発を図っている。

＜いじめ０集会で誓いの言葉を発表する児童の様子＞

ウ　のびのびタイム＜縦割り異学年交流＞

月に１回程度，ロングの昼休みに１年生から６年生まで縦割り班で交流する活動である。

６年生の班長を中心に，事前に班長会議を実施して遊ぶ内容を決め，13 班に分かれた班ごとに，ドッジボールや大縄，リレー，鬼ごっこ，昔遊びなどを実施している。

遊びのリードは 6 年生が中心になり，整列の仕方や遊び方などを下級生に優しく教え，交流を深めている。異学年との交流する機会を得て，高学年のリーダーとしての意識が芽生えるとともに普段外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み，異学年と遊ぶ楽しさを感じる時間となっている。

エ　地域との交流

運動会で，毎年 4 年生が中心となって高齢者との競技種目『じゃんけん列車』を実施し交流の場としている。また，地域の 9 月の敬老会では，全校児童が高齢者の方々へ手紙を出して交流している。また，敬老会や 10 月の水木秋祭りでは，学校の代表として 3 年生や 4 年生が『水木っ子ソーラン』の発表で参加し，地域の方々と交流を深めることができた。

オ　５年生宿泊学習「里美民泊」

５年生の行事の１つとして，９月に「里美民泊」の宿泊学習を実施している。これは，13 年続く水木小の特色ある活動のひとつである。

宿泊学習でお世話になる民泊家庭の方々とは，1 学期から手紙などを通じて交流を続け，宿泊学習終了後も感謝の気持ちを綴ったお礼の手紙や文集を送ったり，「里美かかし祭り」へ参加したりして，年間を通して，交流が続いている。児童にとって，民泊での多くの貴重な経験は，感謝の心や地域への郷土愛を再確認する機会となり，一生忘れられない貴重な思い出となっている。

（３）人権に関する啓発活動

ア　「人権メッセージ」の実施

「人権メッセージ」は，児童が人権について考えるきっかけとなる活動である。

自分なりの考えや思いを自分のことばで表現することで，改めて人権意識が高まっていくと考える。

イ　各種たよりの発行

「いずみ」（学校だより）や「はまぎく」（生徒指導だより）を通して，保護者や地域の方々へ人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ，理解啓発を図っている。

３　研究の成果

（１）「いじめ０運動」は，家庭での話し合いからスタートしたので，子どもたちだけでなく家族の思いや願いが込められた有意義な活動となった。

（２）　生活アンケート（月１回実施）や QU テスト（５・６年実施）で，学級の実態や個別に配慮を要する児童を把握することができ具体的な対応が試みやすくなった。

（３）　人権メッセージを人権コーナーに掲示することで，友だちの考えや思いを知り，自他の理解や尊重につながった。

Ⅱ　今後の課題

毎年６月に実施される「いじめ０運動」だが，１年に１度だけでなく，学級活動や道徳などの時間に「いじめ」についての話し合いを継続していく。ふだんから教室内の言語環境に気を配り，児童の人権感覚や人権意識をより高め育てていきたい。

Ⅲ＜人権コーナー設置の様子＞

○オアシス運動を啓発するための掲示

・おはようございます
・ありがとうございます
・しつれいします
・すみません

○人権メッセージの掲示を通して，様々な考え方・物事のとらえ方に触れられる機会を作り，児童がひとりひとりの良さに気付くことができるようにする。